

北海道 道央地区勤労者山岳連盟

第 48 回定期総会 議案書



空沼・札幌岳縦走路笹刈り作業(9/7～8)

日時 : 2025年3月2日(日)

10時～15時30分

会場 :札幌市教育文化会館・研修室 305

(札幌市中央区北1条西13丁目)

北海道 道央地区勤労者山岳連盟

第 48 回定期総会 式次第

1. 開会の辞

10 時

2. 会長あいさつ

3. 議長団選出

- ・資格審査委員、選挙管理委員の選出
- ・総会成立の報告(資格審査委員会)
- ・理事立候補受付開始(選挙管理委員会)
- ・議長団選出

4. 議事開始

- ①2024 年度活動報告
- ②日本勤労者山岳連盟 第 36 期第 1 回評議会報告
- ③2024 年度決算報告および監査報告(別紙)
- ④2025 年度活動方針(案)
- ⑤2025 年度予算案提出(別紙)
- ⑥質疑応答・討論
- ⑦理事立候補の受付〆切(選挙管理委員会)

昼休み

11 時 40 分～12 時 25 分

- ⑧討論再開 12 時 30 分
- ⑨討論終了
- ⑩総会成立の確認(資格審査委員会)
- ⑪採決
 - ・2024 年度活動報告の承認
 - ・2024 年度決算の承認
 - ・2025 年度活動方針の承認
 - ・2025 年度予算の承認
- ⑫役員選挙(選挙管理委員会)
- ⑬役員選挙報告(選挙管理委員会)

5. 議事終了

- ・議長団退任
- ・新旧役員あいさつ
- ・閉会のあいさつ

15 時 30 分

目次

2024 年度活動報告

総括	4
事務局	6
組織部	10
遭難対策部	14
登山文化委員会	17
自然保護委員	18
海外委員会	20
連盟救助隊	22

2025 年度活動方針

総括	25
事務局	26
組織部	27
遭難対策部	28
登山文化委員会	29
自然保護委員	30
海外委員会	31
連盟救助隊	32

空沼岳万計山荘友の会の活動について

資料 1	北海道道央地区勤労者山岳連盟規約	35
資料 2	北海道道央地区勤労者山岳連盟 救助隊規定	38
資料 3	救助隊内規	39

2024 年度 活動報告(総括)

はじめに

道央地区連盟は労山の①権利としての登山②登山の多様な発展③海外登山の普及④遭難事故の防止⑤自然を守る活動を指針に実践しています。理事会では、その指針に基づき各部・各委員会において総会で決定された事業計画に基づいて事業を推進してきました。

2024 年度はコロナウイルス感染症の分類が 5 類に変更になって約 1 年が経過し、感染症対策からもほぼ解放されての活動計画を実施できる年になりました。長年にわたって開催している市民登山教室(札幌・小樽)、クリーンハイク、登山研究集会など会員以外の登山愛好家も参加しているイベントも本来の形で実施できました。

30 年余りにわたって活動していた連盟事務所が貸主さんの事情により移転を余儀なくされ、9 月に札幌市東区北 1 2 条東 1 丁目に事務所を移転しました。これからはこちらの新事務所が連盟活動の新しい拠点になります。所属会の皆様におきましてはどうぞご承知くださるようお願いいたします。

各山岳会の皆様には各種事業などにご理解・ご協力をいただき感謝する次第です。今後ともよろしくお願いいたします。本年度の総括は次の通りです。

1. 組織状況について

今年度は道央地区連盟での新規・退会の団体はなく、2023 年度と同じく 19 団体となった。2024 年度の全体の会員数は 2023 年度の 707 名から 27 名増の 734 名となった。内訳は前年から減少した団体が 4 団体、増減なしが 7 団体、増加が 8 団体となった。今年度は昨年の会員減少から大幅な増加に転じた。道央地区連盟の目標である 800 名には遠く及ばなかったが、今後も会員同士の絆を深め退会者を減らす努力をしていく。

2. 山岳遭難概況・遭難対策活動・山岳救助活動について

・国内の山岳遭難概況 全国の山岳遭難者数 73,568 名(2023 年度警察庁発表)、遭難者は前年より 62 名増加している。統計を始めた 1961 年以降、遭難者数は最多で、最多更新は 2 年連続になっている。23 年度も新型コロナウイルス禍に伴う行動制限が緩和されたことの影響が継続していると思われる。死者・行方不明者数は 335 名(前年より 8 名増)、うち行方不明者 42 名(前年より 16 名増)、死者 293 名(8 名減)になっている。負傷者は 1,400 名、無事救出者は 1,833 名。山岳遭難者の過去 5 年間の平均値を見ると、2023 年度は 16%増加している。この大きな要因は観光地の人気の山や都心から近い山に登山者が集中(富士山 90%増、高尾山 68%増、穂高連峰 48%増)していることが起因している。道央地区連盟の救助隊では春季・秋季・冬季の年 3 回の訓練を実施し有事の際に備えている。

・遭難対策部と連盟救助隊の連携 7/6～7/7 の全国遭難対策担当者会議に遭難対策部・救助隊より 1 名ずつ派遣して「登山と身体の科学」の著書に記述された様々な知識・技術を学んできた。平時は遭難事故防止の啓蒙活動、有事の際は救助・捜索活動という体制は今後も強化してい

く。

3. 教育活動について

第53回北海道登山研究集会は11月9日～10日の2日間で開催した。記念講演はNHKの放映で注目を浴びている若手登山家の野村良太氏を招き『「北海道分水嶺縦断とヒマラヤ遠征」そして、夢の先...』のタイトルで講演をお願いした。各分科会では第1分科会「ヒグマと出逢ったら、どうする?」、第2分科会「登山技術のアップデート」、第3分科会「ネパールとエベレストに係る諸事情」、第4分科会「登山道補修の喜びと携帯トイレブース設置の苦労話」をテーマで開催した。野村氏の講演は今までと違い、当会員以外の来場者の割合が40%を超し、盛況な講演会となった。また、各分科会も多様なテーマを取り上げたことで、各分科会とも参加者が大幅に増える結果となった。

4. 自然保護活動について

「クリーンハイク」は6/16(日曜日)に実施、6/7(金曜日)に「登山道整備/塩谷丸山～天狗山縦走路穴滝コース」の笹狩りを行った。携帯トイレ関連では8/17～8/18の日程で大雪山裏旭岳野営指定地・裾合平分岐休憩地の携帯トイレブース視察を実施し、日帰り班は8/18(日曜日)に裾合平分岐の組み立て式ブースを組み立てた。また、7/20～7/21には美瑛富士携帯トイレ用ブースの清掃パトロールにも参加をした。自然学習会として5/18(土曜日)に伊達紋別岳でシラネアオイの観察会を実施した。

5. 他団体との連携について

北海道山岳団体交流会 11/27(水)は北海道道央地区勤労者山岳連盟・北海道勤労者山岳連盟・北海道山岳連盟・札幌山岳連盟・日本山岳会北海道支部・日本ヒマラヤ協会・HAT北海道・山のトイレを考える会・北海道山岳ガイド協会・北海道雪崩研究会の10団体に加えて、交流会が15回の節目ということで「山・オール北海道交流会」として拡大し、北大山岳館・札幌登山道整備隊・ユニバーサルクライミングサークルの3団体も加わり、72名の大勢の参加者で盛大に行われた。

交流会で立ち上げた活動のうち、縦走路整備事業の「空沼岳～札幌岳縦走路」が9月に開通しました。また、小樽赤岩のトイレ建て替えについても調査費がついて現在、トイレの建築図案の作成へと一歩前進している状況である。前述した案件のように完遂あるいは前進ということを踏まえ、今後も所属団体の垣根を超えた活動が、登山環境を守るとともに登山文化発展に必要であると考えます。

6. 理事会活動について

理事会では事務所での対面・オンラインの併用で本年度も継続している。連盟だよりとホームページは長らく休眠状態であったが、今年から「連盟だより」は2回の発行、ホームページは見直しに着手した。

2024年度 事務局活動報告

1. 2024年度の理事会の体制

下記の体制で総会活動方針に基づき取り組みました。

2024年度 道央地区勤労者山岳連盟 理事・役員一覧

	役 職	氏 名	所属山岳会	備 考
1	会長	佐藤 信二	バビシエマウンテンクラブ	海外委員長
2	副会長	沼田 祐司	山遊会 ル・レラ	組織部員
3	副会長	小野 洋子	ハイキングクラブ みどりの風	
4	理事長	大野 茂	ハイキングネットワークこだま倶楽部	新日本スポーツ 北海道連盟理事
5	副理事長	伊吹 省道	地図とコンパスで歩く会	自然保護委員長
6	事務局長	松村 智弘	バビシエマウンテンクラブ	
7	事務局	西條 寧	山遊会 ル・レラ	
8	事務局（会計担当）	横関 隆治	札幌ピオレ山の会	自然保護委員
9	事務局	奥井 千波	さっぽろ山遊会	新日本スポーツ 北海道連盟理事
10	事務局	嶋原 博和	バビシエマウンテンクラブ	
11	組織部長	杉野 悟	札幌山びこ山友会	
12	組織部（HP 担当）	山本 裕之	札幌北稜クラブ	全国連盟理事
13	組織部	納谷 教生	百松山岳会	
14	遭難対策部長	大辻 英一	バビシエマウンテンクラブ	全国遭難対策部員
15	遭難対策部	安田 治	札幌中央勤労者山岳会	
16	遭難対策部（救助隊）	船坂 大樹	バビシエマウンテンクラブ	救助隊員
17	遭難対策部（救助隊）	保村 啓太	バビシエマウンテンクラブ	救助隊員
18	登山文化委員長	安東 仁志	札幌中央勤労者山岳会	全国連盟理事
19	登山文化委員	堀井 健二	札幌中央勤労者山岳会	
20	登山文化委員	尾形 祐子	さっぽろ山遊会	

21	登山文化委員	佐々木 正義	ハイキングクラブ みどりの風	
	自然保護委員長	伊吹 省道	地図とコンパスで歩く会	
22	自然保護委員	川村 純子	ハイキングクラブ みどりの風	
23	自然保護委員	青山 愛	さっぽろ山遊会	
24	自然保護委員	荒井 由樹子	札幌山びこ山友会	
25	自然保護委員	田中 昭人	GROPE DE ROCHE	
	救助隊隊長	大辻 英一	バビシエマウンテンクラブ	全国遭難対策部員
26	救助隊副隊長（会計）	白石 泰之	札幌ピオレ山の会	全国遭難対策部員
27	救助隊副隊長	井谷 良太	札幌中央勤労者山岳会	
	海外委員長	佐藤 信二	バビシエマウンテンクラブ	
28	海外委員	辻野 健治	札幌北稜クラブ	
29	海外委員	辻野 治子	同人ラリーグラス	
30	会計監査	長水 洋	札幌登攀倶楽部	北海道連盟会長
31	会計監査	小島 敏正	ハイキングネットワークこだま倶楽部	
32		鎌田 雅年	函館山楽クラブ	
33		森越 義昭	小樽勤労者山岳会	
34		佐藤 敏彦	スマイル・マウンテン・クラブ	
35		内海 弘昭	札幌中央勤労者山岳会	
36		佐藤 雅子	札幌中央勤労者山岳会	

2. 事務局活動

①事務局体制の整備について

事務局理事は、事務局長・松村智弘（バビシエ）、西條寧（ル・レラ）、奥井千波（さっぽろ山遊会）、嶋原博和（バビシエ）の4名での運営をしました。

②全13回理事会の参加者数について

13回開催（第1回は総会）。各理事会の参加理事数は以下の表を参照ください。

年度	②3月	③4月	④5月	⑤6月	⑥7月	⑦8月	⑧9月	⑨10月	⑩11月	⑪12月	⑫1月	⑬2月
2023	21	18	17	15	19	20	19	17	17	15	18	19
2024	22	27	20	15	21	17	20	18	21	22	16	—

2023年度は平均17.91名に対し、2024年度は平均20名（現時点）の出席者でした。若い方の

理事の活躍が目立ち、昨年より活性化している印象があります。

③理事会議事録を Excel データに集約と作業の分担について

5 回目理事会より議事録のフォーマット変更を行い、Excel データに集約しデータ管理をしやすく改善しました。また、議事録の作成者を月ごとに分担し、事務局長の業務の負担も軽減しました。

④各部との連携について

LINE、メーリングリスト、DM、SMS を通して、各部のサポートを行なうことが出来ました。また、連盟行事に積極的に参加し、親睦会等でも交流を深めました。

⑤連盟事務所の移転について

長年利用していた『和幸荘』を 8 月末に引き払い、9 月より『ノースハウス 1 2』（札幌市東区北 12 条東 1 丁目 3-12）に事務所を移転しました。家賃は 3 万円から 3 万 5000 円に値上げになりました。

⑥連盟だよりの復活について

ここ数年更新が途絶えていた『連盟だより』を大幅リニューアルし、8 月と 12 月に PDF で発行しました。内容としては以下のものを掲載。

	277 号 8 月 10 日発行 7 p	278 号 12 月 20 日発行 9 p
1 面	第 45 回市民登山教室 活動報告	第 53 回北海道登山研究集会 報告
2 面	伊達紋別岳 高山植物観察会	心肺蘇生法講習会 初開催 報告
3 面	クリーンハイク実施報告	第 2 回山筋ゴーゴー体操 ONEDAY サポーター養成講座講習会 報告
4 面	登山道新聞第 1 号（空沼岳～札幌岳縦走路整備開始）	登山道新聞第 2 号（空沼岳～札幌岳縦走路開通）
5 面	8 月～12 月行事予定表	道央連盟救助隊 春の救助訓練報告
6 面		1 月～3 月行事予定表

3. 全国連盟、他連盟、加盟団体、他山岳団体に関する活動

① 各会会長・事務局長メーリングリストを通し、全国連盟からの情報や各委員会の情報を速やかに各会へ発信することができました。

② 山岳団体交流会から生まれた『札幌登山道整備連絡協議会』の事務局として尽力し、空沼岳～札幌岳縦走路開通にお役に立てることができました。協議会の初代事務局長に西條寧理事が就任し、9 月 7～8 日の道央連盟の登山道整備の計画・運用に尽力しました。

③ 11 月 27 日開催の第 15 回北海道山岳団体交流会（山！オール北海道山岳交流会）の告知と連絡調整。

15 分の縦走路整備の動画作成も担当し、参加者に活動の詳細を知ってもらいました。

4. 連盟ホームページの管理

長年、ホームページの更新が途絶えていましたが、2024年度より山本裕之全国連盟理事の尽力により更新開始。メールでの問い合わせにもきちんと対応し、山岳会への入会にもつなげることができました。各山岳会のHPリンクの改善。市民登山教室、クリーンハイク、登山研究集会、救助隊訓練の情報をアップデート。本年より復活させた『連盟だより 277号、278号』のPDFアップもしました。

5. 新日本スポーツ連盟の活動について

新日本スポーツ連盟北海道連盟に道央地区連盟から理事として2名(大野理事長・奥井理事)を派遣している。

【平和大好きランニング&ウォーク in 札幌】

今年は9月14日(土曜日)に恒例の「ランニングとウォーク」2種目で開催しました。ランニングは豊平川河川敷、ウォークは大通公園～豊平川河川敷を目指して実施しました。ランニングは「5キロラン&3キロリレー」の2種目、ウォークは「札幌のブラタモリ聖地巡礼とチカホでアンモナイト化石探し」をテーマに開催した。今回は河川敷のイベント貸し出しが重なり、3連休以外の日曜日等が取れず、残念ながら参加者は100人を割り70名あまりの人数での開催になった。

【心肺蘇生法講習会】

道央地区労山が初めて新スポ北海道連盟の事業を後援する形で開催しました。今回は「身近にいる人が万一、意識障害や心肺停止等になったとき、あなたは何ができますか？」のテーマで開催した。講師には当連盟の遭対部と救助隊を兼務している保村啓太氏(バビシエマウンテンクラブ所属)をお願いをした。内容はAEDの操作・心臓マッサージの実践に係る所動作を学びました。保村氏は現役の消防士であり、的確な指導をしていただき受講者に大変評判のいい講習会になりました。

【新年交流会】

本年度の交流会は令和7年1月28日(火曜日)に札幌市内の「ANA ホリデイ IN 札幌すすきの2階レストラン」で各競技団体の方々14名が参加して開催しました。交流会では各競技団体の近況報告等、「ピアノ&チェロのミニライブ」があり親睦を深めました。

【札幌市へのスポーツ施設等改善要求】

・登山関係の要望事項

自然遊歩道のヒグマ対策と最近の状況について

札幌市においては近年、市内各所でヒグマの目撃情報が新聞記事等で目にします。このような状況の中で、藻岩山をはじめとする登山道や市民の森の歩道では、ヒグマの出没状況はどのようになっているのでしょうか。また、上記の自然歩道についてヒグマに対する「安全対策及び告知方法」をどのようにしているか、教えてください。最後に今後の対策や方針等もお聞かせください。

登山関係の要望事項回答

本市における登山道等の出没は約50～70件程度あり、ここ数年で増加傾向にあります。ヒグマの出没情報が寄せられた際には、各登山道入り口に出没情報を記載した看板を設置し、注意喚起等を行っているほか、札幌市ホームページの「自然とふれあう」のページにも、利用上の注意事項やヒグマの出没情報、施設の閉鎖情報等を掲載しております。

また、ヒグマ対策については、札幌ヒグマ基本計画2023に基づき人とヒグマのすみわけを目指した取り組みを進めているところであり、特に中央区、南区、西区の一部のエリアについては「ヒグマ対策重点エリア」として、定着するヒグマの低密度化に向けた取り組みや市民へのヒグマに対する普及啓発に注力していくこととしています。

環) 環境都市推進部環境共生担当課、みどりの推進部みどりの管理課

2024年度 組織部活動報告

1. 市民登山教室

(1) 第45回札幌市民登山教室

今年度は早い時期から開催要綱を確定し、募集期間を4月22日から5月10日とした。市内登山用品店5店に開催の案内チラシを掲示し、4月11日に北海道新聞朝刊に募集記事が掲載された。今年度は教室の収容能力から募集人数を30名程度に絞り込み、最終的に31名が受講した。座学のみ受講者は2名。

登山教室の実施内容

項目・日時	場所	内 容
座学① 5月23日(木) 19:00～21:00	エルプラザ 4F 大研修室	開講の挨拶・オリエンテーション 「登山の計画と山の危険」 【講師】納谷教生さん(百松山岳会) 「基本的な登山の装備と選び方」 【講師】小野洋子さん(ハイキングクラブみどりの風)
座学② 5月30日(木)	エルプラザ 4F	「地形の見方・スマホアプリから読み取る情報」 【講師】伊吹省道さん(地図とコンパスで歩く会)

19:00～21:00	大研修室	*実習登山のミーティング 各会からのサポーターと一緒に
実習登山 6月1日(土) 9:00～14:00	小樽市 塩谷丸山 629m	登山行動の実践 コンパスを使っての地形や現在地の確認 6つのパーティーに分かれて行動 サポーター3名と受講者6名で1パーティー編成 最高気温18℃・風速4m・晴
交流会 6月4日(火) 19:00～20:30	エルプラザ 4F 大研修室	実習登山の反省と交流 パーティー毎に話し合い、パーティー毎に発表してもらう。 連盟所属の山岳会の紹介

受講者出席状況(全31名)(登山参加者でミーティング欠席者2名)

講座日時	5/23 座学①	5/30 座学②	6/1 実習登山	6/4 交流会
人数	31名	29名	29名	23名

受講者年齢構成(座学のみ受講者2名含む)

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	合計
男	0	1	2	3	7	1	14
女	1	1	5	5	5	0	17
計	1	2	7	8	12	1	31

事故の発生と今後の対応

受講者一人が下山中に転倒して右手の痛みを訴えた。帰宅後病院に受診し、親指の骨折が判明。事故者と連絡を取り合い、社会福祉協議会を窓口として加入したボランティア保険から保険金の給付を受けた。

事故が発生した際の状況把握と対応についての事前打ち合わせ、保険手続きに必要なサポーター・受講者全員の連絡先等の情報把握など、次回実施に向けた課題も明らかになった。

サポーターを派遣していただいた山岳会・クラブ

8会から19名を派遣いただいた。

(内訳) さっぽろ山遊会 3

、百松山岳会 3名(うち座学のみ1名)、

山遊会ル・レラ 1

、バビシエ・マウンテン・クラブ 2名、

ハイキングクラブみどりの風 2名、札幌山びこ山友会 4名、札幌ピオレ山の会 2名、

スマイル・マウンテン・クラブ 2名

札幌市民登山教室の受講者のうち当連盟の山岳会・クラブに入会した人数

4会に6名の入会を確認している。

(内訳) さっぽろ山遊会 1名、バビシェ・マウンテン・クラブ 2名、ハイキングクラブみどりの風 2名、札幌山びこ山友会 1名

(2) 第 33 回小樽市民登山教室

日時・会場	内 容
5月16日(木) 18:30~20:30 小樽総合福祉センター	開講と机上学習① ○登山のための準備 【講師】鈴木孝輝さん ○服装と持ち物 【講師】山下敬子さん
5月21日(火) 18:30~20:30 小樽総合福祉センター	机上学習② ○地形図の見方とコンパスの使い方 【講師】森越義昭さん ○実習登山の打合せ 【実習登山スタッフとの打合せ】
5月26日(日) 小樽天狗山(お地蔵さんコース)	実習登山 ○登山行動の実践 ○地図読みとコンパスの確認 反省会(下山後、小樽総合福祉センターで)

・4月11日にポスターとチラシを印刷、秀岳荘北大店、小樽体育館、スポーツ店等20件近くに掲示、配布する。小樽ジャーナル(4/15)、道新伝言板(4/15折込)、道新記事(4/25掲載)。

5月9日に定員10名に達してポスターチラシを回収する。

- ・受講申し込みは10名(40代1名、50代5名、60代3名、70代1名)
- ・実習登山参加者は9名。
- ・受講者1名が小樽勤労者山岳会に入会したが仕事の関係(春に転勤予定)で11月に退会。

2. 山筋ゴーゴー体操講習会

山筋ゴーゴー体操を普及するため全国連盟が地方連盟と協働で実施する「山筋ゴーゴー体操・ONE DAY サポーター養成講座」として次のとおり実施した。

日時・会場 2024年11月17日(日) 9:00~16:00

参加者

さっぽろ山遊会 2

百松山岳会 1

札幌中央勤労者山岳会 1

バビシェ・マウンテン・クラブ 1

札幌山びこ山友会 2

講師

全国連盟山筋ゴーゴー体操推進委員会から2名派遣を受けた。

(全国連盟久保副理事長、谷脇広子講師)

サポーター 百松山岳会から2名(昨年度サポーター認定)

講座の内容

テキストとスクリーンの動画を併用しつつ、講師から山筋ゴーゴー体操の6種目について動作の基本や注意点などを受けた後、実際の講習会を想定して、6種目の実演や各種目の目的や強化される部位や効果等の説明などを習得した。

(6) 今後に向けて

2年間やって20名のサポーターが誕生した。加齢とともに進行する筋肉量の低下は、バランス能力の衰えに繋がり、山行中の転倒、滑落などの事故の誘因ともなる。適切なトレーニングを日常的に行なうことで事故防止の一助となることを期待したい。今後は所属会で各サポーターが普及につとめていただきたい。

3. 連盟組織調査

表1を参照されたい。会員総数は707名から734名と27名増加した。2022年度の726名をも上回った。要因としては、退会者が前年の115名から54名へと大きく減少したことと推測される。入会者は同じく96名から81名と減少しているのに、「増加」したのは、「多くの会員を獲得したのではなく、退会を防ぐことができた結果」と言えそうである。若手と言われる20代から40代は156名と変わらない。したがって、今年度に限って言えば、中高年の会員があまりやめなかったのが、会員が増加したと言えるのではないかと。

2024年11月末現在

団体名	団体登録番号	合計	男性	女性	備考
小樽勤労者山岳会	011101	35	22	13	
GROUPE DE ROCHE	011201	8	5	3	
札幌中央勤労者山岳会	011301	162	90	72	
札幌ピオレ山の会	011302	38	21	17	
札幌北稜クラブ	011303	40	30	10	
札幌山びこ山友会	011304	53	23	30	
札幌登攀倶楽部	011305	9	8	1	
山遊会 ル・レラ	011311	4	2	2	
さっぽろ山遊会	011312	53	18	35	
スマイル・マウンテン・クラブ	011313	52	32	20	
同人ラリーグラス	011402	12	0	12	
同人スンク	011403	4	2	2	
地図とコンパスで歩く会	011404	2	1	1	
ハイキングクラブみどりの風	011601	34	9	25	
百松山岳会	011602	43	26	17	
ハイキングネットワークこだま倶楽部	011603	13	7	6	
函館山楽クラブ	011604	62	16	46	
パピシェ・マウンテン・クラブ	011605	98	51	47	
リベルテ	011901	12	7	5	
総合計	19 会	734	370	364	

2024 年度 遭難対策部活動報告

1. 全国遭難対策担当者会議への参加

7月6日(土)～7日(日) 東京にある全国連盟事務所にて全国から40名の方達が集まり、全国遭難対策担当者会議が開かれました。北海道からは大辻・白石の2名が参加しました。今年の会議は、全国の死亡事故や事故統計について話し合うのはもちろんなのですが、「登山の運動生理学とトレーニング学」の著者で、全国連盟の顧問でもある山本先生の講義がありました。今回は、5月に出た新刊「登山と身体の科学」から要点を抜粋したお話を聞ける貴重な講義でした。

全国の事故については、警察統計・連盟統計ともに50代～60代の女性の転倒事故の多さが目立ちました。

2. 第53回 北海道登山研究集会への取り組み

①11月16日(日) 第二分科会の開催

全国連盟から遭難対策部・国際部長である大和田英子理事をお呼びしての講義をお願いしました。大和田理事は総合登山技術ハンドブックの翻訳をされており、本の活用の仕方から、テーマとした「登山技術のアップデート」への考え方について講義をして頂きました。

②登山研究集会論文集の発行

2024年 事故報告・ヒヤリハット報告

全国連盟 事故概況統計・2022～2024年の死亡事故報告

道央連盟救助隊 春の訓練報告

登山技術のアップデートにあたっての心構え

3. 第30回 北海道雪崩講習会への取り組み

2024年11月24日(日) 開校式・総合理論講座

2025年1月16日(木) 実習前ミーティング・座学

2025年1月25日(土)～26日(日) 中山峠周辺にて実地講習

2025年2月1日(土)～2日(日) グリーンパークぴっぷ周辺にて実地講習

2025年2月8日(土)～9日(日) 上札内交流館周辺にて実地講習

申し込み総数71名

4. 遭難事故・ヒヤリハット報告

事故報告

	発生日	会名	山域・ルート	発生状況	傷害の程度
1	1月19日	スマイル・マウンテンクラブ	前十勝岳 カバワラ 尾根ルート	4人パーティで山スキー、1280m付近で女性会員が前のめりの不自然な態勢で転倒。転倒後に左下腿の痛みを訴え、立つことができなかった。 男性会員が駆けつけると左下腿が明らかに変形していた。女性会員は患側の痛みが強く悲鳴を上げるほどの状態。警察に救助要請し、防災ヘリコプターが向かったと連絡があり、ヘリコプターで搬送となった。	左脛骨遠位端骨折 左腓骨骨折
2	5月18日	札幌山びこ山友会	ペトツルンベ山	女性会員が単独でピークハント・山菜採りで入山。下山途中、藪が水筒に刺さり残水は少量となったため、長時間の藪漕ぎでかなり体力を消耗し疲労困憊。藪に入りたくない気持ちで330m辺りから沢へと方向転換。 緩い傾斜だったがブヨの大群を避ける際に滑って転倒。大きな石に尻餅をつき痛めるが、その後は自力下山。後日痛みが目立ってきたので病院で受診。仙骨骨折疑いだったがその後のMRIの結果、骨挫傷との診断。	仙骨骨挫傷
3	6月9日	札幌山びこ山友会	富良野岳	4人パーティーでの日帰り尾根山行。原始が原登山口を出発し林間コースで行動停止予定の1156mまで登る。予定時刻より早く到着したので1352mまで登り、そこからピストンで戻り富良野岳分岐より滝コースを下った。二段の滝を過ぎて150m位行ったところで石の上で女性会員が転倒し、右手首を痛める。富良野協会病院に受診しレントゲンで骨折と判明。	右手首骨折
4	6月9日	ハイキングクラブ みどりの風	洞爺湖中島	4人パーティーでの夏尾根山行。昼食休憩後の13:00頃、湖畔沿いのルート途中にて女性会員が足を踏み外し湖畔側の斜面に5m程滑落。パーティーでサポートしながら自力下山。	右前額裂傷 左母指中手骨骨折

5	7月14日	札幌ピオレ山の会	十勝岳 (日高) コイボクシユメナシユンベツ川十勝岳南面直登沢。	標高 1090m 付近の急斜面の沢を下る途中、左手でつかんだ岩が動いてバランスを崩した。崩れた岩とともに頭から転倒し 2 回転ほど前転して尻もちを着いた状態で止まった。痛みはなかったのですが立ち上がろうとしたが足に力が入らず、皆に支えられながらゆっくり下りてみたが、ある瞬間に激痛が走り 1 歩も歩けなくなり、ビバークして翌日ヘリ救助された。	右脛骨骨折及び前十字靭帯損傷
6	8月10日	ハイキングネットワークこだま倶楽部	トムラウシ山	トムラウシ山 短絡路コースを7名パーティでテント泊山行。山中泊装備で短絡路駐車場をam8:00 に出発。前夜の雨の影響もあり登山道はぬかるんでいた。カムイ天上をすぎるとますますひどくなる。沢へ下降手前、1450m 付近で足を滑らせ転倒、左手を痛める。湿布と痛み止めの服用で山行を続ける。	左橈骨遠位端骨折

ヒヤリハット報告

1	6月30日	バビシエ・マウンテンクラブ	白水沢	会の沢入門に13名が参加。Co800 ゴルジュの滝にてリーダーが確保するロープで入門者が滝を登る途中、滝の核心部で足を滑らせ水流の中で一瞬宙吊りになった。確保者がロープを流し他メンバーもフォローに入り滝から引き上げて事なきを得た。今回あえてデバイスは使用せず、カラビナに水を含んだフローティングロープでのムンターヒッチ(半マスト)での確保という状況の為か、結び目が固くなっておりノットが流れにくい状況が宙吊時間に影響があった。その後の検証では、ムンターを引く角度によっても反転する動きに支障がある事がわかった。(真下に引くのが流れが良い)	シバリング
2	10月12日	札幌山びこ山友会	札幌岳から空沼岳縦走	6人パーティでの山行。札幌岳を空沼岳方向に下り 約90m 地点の登山道、標高1260m 付近。大きな岩場で残置トラロープのある急な下り斜面。足元の岩が斜めになった不安定な足場で後ろ向きに約3m 転落。背から岩に当たりながら落下し臀部を強打。メンバーの助けを借りながら自力下山し当番病院を受診。	臀部の打撲

2024年度 登山文化委員会活動報告

今年コロナ感染症に留意しつつも、集会行事について平常モードによる実施が可能となりました。

論文報告集については、引き続きの無料配布として準備に入りました。

1. 登研実行委員会の開催

(1) 構成メンバー

①連盟理事：安東（中央）、堀井（中央）、伊吹（地図とコンパス）、佐々木（みどり）、尾形（山遊会）

②登研委員：山田（みどり）、城戸（百松）、佐藤（山びこ）、志和（山びこ）、高田（山遊会）、渡邊（山遊会）、山内（スマイル）

(2) 登研実行委員会の日程： 毎月第1水曜日 開催の予定にて、グループ・メールによる意見交換及びズーム会議により、時間の有効活用を図った。

2. 論文報告集の発行

各分科会のテーマに基づく報告文を、印刷予算から割り出したページ数となるように協力を戴いた。総会員に無償配布しカラー印刷による視覚効果も引き続き継続した。原稿のメ切超過等にての課題が以前としてあり、印刷工程の見直し、修正など今後の課題として考察を要します。

発行数 1000 部：下記①～③の合計

【配付先内訳】 総会員数の部数を目安に無償配布することとした。

道央連盟： 配付数計 771

配付先・配付数 (会員数)	中央労山 160	百松山岳会 45	北稜クラブ 50	山びこ山友会 55	ピオレ山の会 50
	みどりの風 30	こだま倶楽部 15	同人スング 5	ロシエ 10	函館山楽クラブ 75
	ラリーグラス 13	登攀倶楽部 10	スマイル 50	バビシエ 90	小樽労山 40
	さっぽろ山遊会 55	ル・レラ 4	リベルテ 12	地図とコンパス 2	

道央外連盟： 配付数計 143

配付先・配付数	旭川労山 35	オホーツク 3	帯広労山 40	釧路労山
---------	---------	---------	---------	------

				30
	道央連盟 20	北見労山 15		

その他 . . . 分科会 30 、 執筆者他 20 、 予備 36

3. 記念講演会

理事会にての承認のもと、講師手配及び設定準備に入った。今年度のゲスト講師は、野村良太氏により

『北海道分水嶺縦断とヒマラヤ遠征』そして、夢の先に・・・と題した演目にて、好評を博しました。

4. 第53回登山研究集会参加者数

各分科会は、従来と同じくそれぞれの担当部会にて責任をもって実行手配をしています。

この役割分担につきましても、各分科会の担当理事の方々に再認識を求めたく思います。

記念講演会 213名、分科会 192名 計 405名 (前年対比 154名増加)

2024年度 自然保護委員会活動報告

下記の通り報告いたします。

1. クリーンハイクを6月16日第3日曜日に実施。

参加団体：18団体、20カ所の山域で実施。

参加人数：会員200名、一般35名、合計235名。

ゴミ収集：可燃ゴミ18.9kg、不燃ゴミ52.6kg、合計71.5kg。

マナー袋：244袋を一般登山者に配布しました。

皆さまのご協力に感謝いたします。

2. 自然学習交流会の企画

(1) 大雪山・山守隊の登山道整備イベントに参加

残念ですが日程調整ができず参加できませんでした。

(2) 高山植物観察山行

5月18日(土)伊達紋別岳でシラネアオイの観察会を実施しました。

参加者：札幌山びこ山友会 8 名、百松山岳会 6 名、小樽勤労者山岳会 1 名、
スマイル・マウンテン・クラブ 3 名、札幌ピオレ山の会 1 名、
地図とコンパスで歩く会 1 名 **合計 20 名**

最高の天気にも恵まれシラネアオイの群落を満喫しました。

参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

(3) 大雪山裏旭野営指定地・裾合平分岐休憩地の携帯トイレブースの視察

宿泊班：8月17日（土）～18日（日）裏旭野営指定地テント泊。

参加者：スマイル・マウンテン・クラブ 2 名、小樽勤労者山岳会 2 名、
地図とコンパスで歩く会 1 名、 **合計 5 名**

日帰り班：8月18日（日）裾合平分岐の組み立て式ブースを実際に組み立てた。

参加者：札幌山びこ山友会 3 名、スマイル・マウンテン・クラブ 1 名、
札幌ピオレ山の会 1 名、 **合計 5 名**（中岳温泉で宿泊班と合流）。

参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

(4) 美瑛富士携帯トイレ用ブースの清掃パトロールに参加

7月20日（土）～21日（日）国設白金野営場ケビン泊。

参加者：札幌山びこ山友会 5 名、スマイル・マウンテン・クラブ 5 名、
百松山岳会 2 名、札幌ピオレ山の会 2 名、
地図とコンパスで歩く会 1 名、 **合計 15 名**

参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

(5) 登山道整備 塩谷丸山～天狗山縦走路穴滝コースの笹刈

第1次笹刈：6月7日（金）下見調査兼笹刈。

参加者：さっぽろ山遊会 2 名、札幌山びこ山友会 1 名、
百松山岳会 1 名、地図とコンパスで歩く会 1 名、

合計 5 名

第2次笹刈：10月19日（日）本番の笹刈は天候不良のため中止しました。

参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

(6) NPO 法人かむいが単独で設置した携帯トイレブースの視察

9月23日（月/休日）大雪山赤岳駒草平に設置された携帯トイレブースを視察。

参加者：札幌山びこ山友会 6 名、百松山岳会 1 名、地図とコンパスで歩く会 1 名、
合計 8 名

参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

3. 登山研究集会第4分科会（自然保護部門）

11月10日（日）に講演会実施しました。

講演者：asahidake trail keeper 代表 藤このみさん。

テーマ：「登山道補修の喜びと携帯トイレブース設置の苦労話

場 所：講堂。

時 間：午後1時～2時30分。

参加者：51名。

参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

以上

2024年度 海外委員会活動報告

一昨年(2022)年の5月、コロナが5類に移行してから、海外旅行の制限もなくなり、道内では海外登山がトレッキングを中心に行われるようになりました。各山岳会や個人でも計画され、コロナ以前と同じような状態になってきたようです。それでも全体的にみると、かつての活発な海外登山と比べると相当に低迷状態が続いています。今後、コロナで休んでいた分を取り戻し、このまま上昇して一層活発になることを期待しています。

1. 活動日誌

4月 北海道海外登山研究会後援

11月 北海道登山研究集会 第3分科会(海外登山部門)開催

2. 北海道海外登山研究会後援

4月には北海道海外登山研究会がコロナ後、3年振りに行われた昨年に続き開催されました。同登山研究会は、道内で唯一海外登山を研究する団体です。各山岳団体の枠を超えた任意団体であり、海外委員会では研究会の運営等を支援しています。昨年(2023)年の第29回目は、講師にプロガイドの馬目弘仁氏を迎え「勇気と理性、登頂と生還」の題目で講演を行いました。馬目氏は2013年にネパールのキャシャール峰南ピラー(6770m)を初登頂し、ピオレ・ドール賞を受賞するなど、未踏峰に挑む日本を代表するクライマーです。当日、失敗を教訓として次に結ぶこと、山を楽しむとともに登頂する強い意志が必要などと経験を重ねることによって得られる体験を話してくれました。続いて、ネパールのアニディシュチュリ峰、インドのヌン峰などの海外登山も報告されました。

3. 11月の登山研究集会では第3分科会(海外登山部門)を開催しました。

今回のテーマは「ネパールのエベレスト街道のトレッキングはいくらあれば行けるのかな? エージェント代は? ガイド代は? ポーター代は? ホテル代は? 食費は? ピールは? お土産代は? タクシー代は? ボーナスは? チップは? アンナプルナなど他のトレッキングは?……分かりそうでわからない、ネパールお金事情……」についてです。

まずは海外トレッキング及び登山報告から始まりました。中央登山9人が17日間で行ったエベレスト街道にあるトレッキングピークのカラパタール(5545m)。同じ中央で単独(ガイドと2

人)、19日間で登ったランタン地区にあるナヤカンガ峰(5844m)。高度が300mほどしか違わないが、夏靴で登れるカラパタールとアイゼン、ピッケルが必要なナヤカンガ峰とでは大変な違いがありました。もう一つ、バビシェ・マウンテン・クラブのアンナプルナ内院トレッキングも予定していたが、発表者の都合で急きょ中止になりました。報告者は共に初めての経験のため、新鮮で生き生きとしており、参加者からは大変好評で大きな拍手が送られていました。

その後テーマであるお金事情に移りました。佐藤が報告したが、ネパール国内の物価高と人件費高、そして基本的に米ドル建て価格なので円の急落に伴う“高騰”により、コロナ以前と比べると驚くほどすべてが高くなっています。

ネパールでは昨年からはガイドを雇うことが義務付けられたので、今までのように英語やネパール語が堪能でも単独行は出来なくなりました。トレッキングの許可を取るにはネパール国内のエージェントを通すことになりました。

そのため、日本の旅行代理店、現地のエージェント、個人ガイドを雇うなどの方法が必要です。それぞれ料金が違います。またポーターを雇う、自分で荷物を担ぐか、さらにトータルパックと毎日の食事、宿泊代などの個別支払いによっても変わります。煩わしさのないことや気楽さ安心などを考えるか、安さや行程の中身の体験などを望むかなど、それぞれの利点、楽しみ方があります。

私が懇意にしているネパールエージェントと他の料金表を比較してみました。一番料金がかかるガイド代、ポーター代はコロナ前とはびっくりするほど高くなっています。同様に飛行機、ヘリコプター、車のチャーターなどの移動費も高騰しています。

さらに、トレッキング中のホテル(バグティ、ロッジともいう)のメニューやカトマンズでの食事、ホテル代、お土産代なども提示する予定でしたが、残念ながら時間切れでできませんでした。一応大きなお金事情は説明できましたが、詳細は次の機会ということに…。また、金額を文章で提示すると何かと問題が出てきそうなので、分科会の中でのお話となりました。

4. ネパール山岳地域の5万分の1地図を保管

海外委員会ではネパールの5万分の1の地図を保管しています。山岳全地域を網羅(117枚)していますので、山域やルート研究など希望のエリアを自由に閲覧できます。管理を考えて希望者にはコピーで渡していますが、本体でも可能です。大事に扱ってください。

5. 情報、資料の収集と管理、提供

海外登山の計画書、報告書を誰にでも閲覧できるようにファイルできるように考えています。そのためにも、海外登山の計画書、報告書を必ず海外委員会に提出するようお願いいたします。

2024年度 連盟救助隊活動報告

今年度より井谷隊長から隊長を引き継ぎ、バビシュ・マウンテンクラブの大辻を隊長とした新たな体制での活動となりました。隊長の初年度ということもあり、不慣れなで至らない事もあったが、副隊長ならびに幹事・隊員の皆様に支えて頂きました。皆様に感謝申し上げます。

2024年は救助隊の出動はありませんでした。これも各会員の皆様の遭難対策の賜物です、感謝申し上げます。

春季訓練では、これまでの訓練の成果を活かしつつ更に難易度を上げ、ハイラインシステムによる要救助者の引き上げ下げの訓練をおこないました。そして、宮城県連から橋本さんと伊東さんが去年に続きオブザーバー参加されました。遠く離れた北海道までお越しくださいまして、大変お疲れ様でした。訓練への参加、ありがとうございました。

秋季訓練では、大辻の元職場の訓練鉄塔を使わせて頂き、ロープワークの基本～応用まで普段とは違う環境での貴重な訓練を行う事が出来ました。オーナー並びに関係者の皆様に感謝申し上げます。

隊長：大辻（BMC）

副隊長：安藤（登攀）、井谷（中央）、板橋（北陵）、白石（ピオレ）

会計：白石（ピオレ）

幹事：井谷、内海（中央）、大辻・松本・船坂・保村（BMC）、白石（ピオレ）、安藤（登攀）、板橋（北陵）、田中（スマイル）、荻野（ロシェ）、早坂（リベルテ）

1. 幹事会の開催

①第1回 2024年4月15日(月) 旧連盟事務所

参加者：大辻・白石・船坂 zoom参加：井谷・松本

議題：各訓練担当について・必要装備の検討・ガイド協会とのデポ装備共有について・予算確認・隊装備の棚卸し

②第2回 2024年9月26日(木) 連盟事務所

参加者：大辻・白石 Skype参加：井谷・松本

議題：救助隊出動時の日当の再検討・秋季訓練の打ち合わせ・必要装備の検討・連絡網の確認・予算確認・

救助出動時の通信手段について

→今後は衛星通信も活用していきたい・auスターリンクや他キャリアの動向をチェックしていく

2. 救助隊体制構築および隊員名簿・隊員連絡網の作成

前年に引き続き救助訓練参加者は登録隊員を対象として実施

2024年春の訓練では宮城県連盟から2名参加されました。

3. 救助訓練の実施

①春季訓練 2024年6月22日(土)～23日(日) 場所：小樽赤岩テーブルリッジ

担当：白石副隊長（ピオレ） 訓練内容は別紙にて報告

②訓練 2024年10月27日(日)

場所：札幌市南区真駒内 サムライロープワークス訓練鉄塔

訓練内容は別紙にて報告

4. 隊装備の購入・棚卸し

※次ページ参照

救助隊装備表						45649
装 備 名	規 格				数	備 考
スタティックロープ	名称・規格他 11mm 11mm 11mm 11mm 11mm 11mm 11mm 9mm 9mm 9mm	色 黒 赤 緑 青 黄 白 赤 青 緑 青	強度・効率 30.5kn1.9%	サイズ・メーカー 100m スターリン・50m スターリン・50m スターリン・50m スターリン・50m 50m スターリン100m スターリン100m スターリン100m スターリン100m	2 1 1 1 1 2 1 1 1 1	セミスタティックロープ 2013年 2013年 2013年 2013年 2007年セミスタ 2017年 2017年 2022年 2015年2023年ヌビナイ使用 2024年3月↑上記理由により購入
ローププロテクター	キャンバス カバータイプ セットキャタピラー コルゲートのプロテクタ 消防ホース SMCローププロテクター	黒 白 白 黄色		mtクラフト 自作 自作 SMC	3 2 10 1	2015年 2010年 2023年 傷は熟して撫でる 2023年 2014年
スリング	ソウンスリング ソウンスリング ソウンスリング ソウンスリング	黄色 青黄 黄色 オレンジ		180cm 120cm 120cm 120cm	7 11 2 2	
ブルージック用スリング	バンドループ 6mmブルージックコード ブルージックコード	赤 青 青 赤 青	20kn 20kn 11.2kn 15.6kn 15.6kn	45cm 60cm PMI 30cm 145cm 170cm	8 8 6 8 8	2012年 2012年 2015新規購入品 2024年作成 2024年作成
ウェビング	VTブルージック ショートバーセル アラミドコード チューブラ2.5cm	薄茶 緑 黒 赤 橙 青 黄	E20/B29.5kn 12.5kn 22kn 17.8kn	84cm 105cm 7.5m 6.0m 4.5m 3.6m	8 5 5 6 6 6	2014年 2023年 2023年 2012年 2012年 2012年 2012年
アンカー用ロープスリング	8mm 8mm 8mm 8mm 6mm	赤 緑 赤 青 オレンジ	13.4kn 15.6kn 1540kg	PMI10m PMI10m スターリン10m スターリン10m ヤマハ10m	2 2 1 3 2	2022年 2022年 2021年 2021年 ダイニーマ製
ディッセンダー	ストップ アイディー リグ レスキューエイト レスキューエイト マイクロブレーキパー クラッチ MPD tubic ATOガイド			ベツル ベツル ベツル SMC CMI SMC CMC CMC シモン BD	2 2 1 1 1 1 2 2 2	2007年 2011年 2013年 2009年 2009年 2015新規購入品 2021購入・白石保管 2022松本氏購入・白石保管 2021年 2022年
アッセンダー プーリー	レスキューセンダー フィックス ベツル大きなプーリー レスキュー PMP タンデム スイベル付プーリー類付 スイベル付プーリー無し ロールクリップ ミニ	赤 青 青紫 赤 オレンジ オレンジ 金 黄	10kn 71% 36kn 94% 36kn 94% 20kn 85% 23kn 91%	ベツル ベツル ベツル ベツル ベツル ベツル ベツル ベツル ベツル	2 2 2 2 2 2 2 2 2	2008ハイライン用 2013 2013
安全環付カラビナ	ジュラルミン ジュラルミン アルミ製D型 アルミ製D型 アルミ製O型 アルミ製O型 アルミ製O型 アルミ製O型 アルミ製O型 アルミ製O型 スイベルカラビナ オーバル	銀 銀 赤 赤 赤 赤 赤 銀 銀 銀 ダークグレー グレー		シモン シモン カンブ コング コング ロックエキゾチカ ベツル ベツル ベツル EDELRID/ISC mt.dax	10前後 20 10 5 5 4 10 2 8 2	2000年以前?、10個を在庫 5個はラッキング用に使用 2022年購入 2020・2021年購入 2020年購入 艶有、旧型OK 艶無、新型OK、2018購入 2021年購入 2023購入 2015年購入
その他カラビナ類	鉄製 デルタマイロン ラッセルリング		25kn	ベツル ベツル ベツル	1 1 2	2023購入 2023購入
アズテック	アズテック アズテック アズテック	青 青 黄	36kn		1 1 1	2014年 2022年購入 2014年
リギングプレート	ポー(M) ポー(L)	青 金		ベツル ベツル	1 2	複数支点用 2012年多数支点用
チェストハーネス レスキューハーネス レスキューザック スケッドストレッチャー チタンストレッチャ スノーポート	チェストエア レスキューハーネス 65L 長さ:212 cm 幅:60 cm 2分割バスケットストレッチャ 2分割バスケットストレッチャ	黒 オレンジ オレンジ		耐荷重11kn ベツル ベツル mt.ダックス グレゴリー	3 1 1 1 1	2021年購入、黒ビナ付き 2021年購入 2023購入 2023購入 2025年1月支払予定 冬用2分割・2022年導入 冬用2分割・2000年以前導入?
無線機	アマチュア無線機 デジタル簡易無線 特定小電力無線機 ロングアンテナ ハンドマイク	黒 黒 黄黒各2	5W	CMC スベンサー ファノ VX-8G FC-D301 IC-4100 FC-D301用	3 2 4 4 4	資格:大辻 安藤 板橋 2021購入・登録済・白石保管 2010年購入 2023購入 白石保管 2020年購入 IC4100用
ハンマードリル	ハンマードリル本体 専用バッテリー				1 2	本体のみ 経年劣化で電圧上らず
アリゾナボートテックス	ジンボールヘッド Aフレームジョイナー アッパーレグ ローワーレグ ラプターフット フラットフット レグピン ヘッドピン	オレンジ 青			1 1 3 9 3 3 17 4	
スナップシャックル ブルーシート	使用荷重2.16kn			YA-2	1 2	

2025 年度 活動方針(総括)

労山の趣旨が「登山は優れたスポーツ文化である」ことを踏まえ、登山にかかる多様なニーズ(海外登山の普及・遭難事故の防止・自然を守り後世に残す)に応える。道央地区連盟の私たちは各部・各委員会が前述の趣旨に向かって活動をしていきます。特に道央地区連盟に所属していない登山愛好家に「市民登山教室・クリーンハイク・北海道登山研究集会等」を今まで以上にアピールしていきます。また、連盟だよりの発行回数の推進、ホームページの内容充実を図っていきます。

1. 会員の拡大

会員数は 23 年度的大幅減少から 24 年度は大幅な増加に転じた。会員数 800 名の目標は数年先を目指し、まず今年度は目の前の 750 名を目指したい。その方策として市民登山教室の所属会の紹介を登山研究集会でもできないかを模索したい。また、ホームページにおいては連盟だよりの閲覧、所属会へのホームページリンクの推進を図る。

2. 連盟と各山岳会との連携や組織の強化

【情報の発信と共有化】

- ・連盟理事会は対面とオンラインの併合で実施していく。
- ・理事会での議事録は各山岳会の代表者・事務局長へメールリストで開示していく。
- ・連盟行事等についてもメールリストで各会代表者・事務局長に告知し、参加を呼びかける。
- ・所属山岳会との密なる連携と労山の目的を享受するために、リーダー養成登山スクール(夏季・冬季)の開設を検討する。

3. 山岳事故を無くすための取組の推進

【技術力の向上等】

- ・各山岳会から事故報告・ヒヤリハット報告を提出してもらったうえで、取りまとめたリストを開示して事故防止を促す。
- ・全国救助技術交流会に該当理事を派遣し、情報収集等を行い技術力を磨く。
- ・救助隊の定期訓練を春季・秋季・冬季の 3 回実施する。

4. 登山文化の推進と普及

【第 54 回北海道登山研究集会の開催】

- ・昨年度の講演会を踏まえ、会員以外にもアピールできる講師の招へいに務める。
- ・各分科会においては、会員を含め多様なニーズに応えるテーマを取り上げる。

5. 自然環境を守る取組の推進

【自然保護関連事業と参加】

- ・クリーンハイク・登山道整備(後志管内を予定)の実施。
- ・携帯トイレブース関連(大雪山高原温泉沼めぐりコース・美瑛富士)に参加。

6. 他団体との連携について

- ・道内の山岳団体で構成されている「北海道山岳団体交流会」への参加
- ・空沼岳～札幌岳縦走路開通後の発生する作業の確認

2025 年度事務局活動方針

1. 事務局活動

- ①安定した理事会運営を図るため、事務局体制のさらなる強化を目指す。
- ②理事会を引き続き定期的で開催し、多くの理事に出席してもらえるよう理事への呼びかけを図りたい。また、連盟の諸活動がスムーズに実施出来るよう各部との連携・調整を図る。
- ③連盟活動の継続的な運営、効率化のため、連盟作成データの共通利用の促進とその蓄積保存を引き続き図る。
- ④連盟事務所の環境を快適に維持するため、春秋 2 回の掃除を実施する。
- ⑤昨年度に続き、「連盟だより」の発行を継続し、道央連盟の活動の周知と記録媒体とする

2. 全国連盟、他連盟、加盟団体、他山岳団体との連絡調整

- ①加盟山岳会との連携については、理事会議事録や全国連盟からの文書等を引き続き速やかに付して連盟全体の情報の共有化をはかる。
- ②昨年度は空沼岳～札幌岳登山道整備活動もあり、他山岳団体との関係がより親密になった。引き続き事務局が関係各所と交流を持ち、オール北海道で登山界隈を盛り立てていく。

3. 連盟ホームページの管理

現ホームページについては、無料のサーバーのため好ましくない広告も掲載される状況である。有料サーバーを契約する話もあるが、全国連盟とのサーバー共有の話もあるので、何が最善か検討し、引き続き良質な情報発信を務めていく。

4. 新日本スポーツ連盟の活動について

新日本スポーツ連盟北海道連盟に理事を派遣し、各種事業に参画する。

2025 年度 組織部活動方針

1. 市民登山教室

市民登山教室は、市民に安全で楽しい登山を普及するための活動であるとともに、『労山』の仲間を増やす取り組みです。会員の皆様に講師、サポーターとして協力をいただき、受講生との交流を通して各会・クラブの活動を広く PR することに取り組む。

(1) 第 46 回札幌市民登山教室

日時・会場	内 容
5 月 22 日 (木) 札幌エルプラザ	開講と座学① ・登山の計画と山の危険 ・基本的な登山の装備と選び方
5 月 29 日 (木) 札幌エルプラザ	座学② ・地形図の見方 実習登山へ向けてのミーティング
5 月 31 日 (土) 塩谷丸山 (小樽市)	実習登山 (小樽塩谷丸山) ・登山の実践 ・地形図の使用法など ※予備日は 6 月 1 日 (日)
6 月 3 日 (火) 札幌エルプラザ	交流会 実習登山の反省と登山 Q&A 各会。クラブの PR

募集人員等 30 名 参加費 3000 円

事業の運営等について

広報活動 十分な広報期間を確保し、新聞掲載、連盟ホームページ掲載とスポーツ店への案内チラシの設置の広報により、受講者の獲得を図る。

講義内容 対象を登山の初心者に絞り込み、「登山の基本」を中心に構成する。
読図については、スマホアプリの要素を取り入れる。

荒天対応 実習登山の実施日を土曜日とし、翌日曜を予備日とする。

(2) 第 34 回小樽市民登山教室

日時・会場	内 容
5 月 13 日 (火) 小樽総合福祉センター	開講と机上学習① ○登山のための準備 ○服装と持ち物

5月20日(火) 小樽総合福祉センター	机上学習② ○地形図の見方とコンパスの使い方 ○実習登山の打合せ
5月25日(日) 実習登山終了後 生涯学習プラザ レピオ	実習登山 小樽天狗山(お地藏さんコース) 反省会

2. 連盟組織調査

例年通り、2025年11月末日時点での会員数等について調査する。

2025年度 遭難対策部活動方針

1. 遭難対策部部会・遭難対策担当者会議の開催

年に数回 遭難対策部・遭難対策担当者が集まり協議をおこなう

2. 遭難事故の分析と啓蒙

各山岳会からの事故・ヒヤリハット報告を収集し理事会にて報告
事故の要因・分析・再発防止と啓蒙に務める

3. 第54回 北海道登山研究集会への参画

遭難対策に関する第二分科会の担当
登山研究集会論文集の発行

4. 第31回 北海道雪崩講習会の共同開催

総合理論講座・開校式 りんゆうホール&オンライン
講師クリニック
実習前ミーティング
実習講習会(道央校・道北校・道東校、各エリア)

2025 年度登山文化委員会活動方針

第 54 回北海道登山研究集会の開催

1. 日程・会場

- (1) 講演会 : 2025 年 11 月 15 日 (土) 札幌教育文化会館 (中央区北 1 条西 13 丁目)
18:00~20:00
- (2) 分科会 : 2025 年 11 月 16 日 (日) 札幌教育文化会館 (中央区北 1 条西 13 丁目)
 - ①分科会 9:30~14:30 (昼 12:00~13:00)
 - ②全体集会 14:45~15:15

2. 内 容

- (1) 講演会 : 連盟および所属山岳会の登山文化活動に有用な内容となる講師・演目を検討する。
- (2) 分科会 : 連盟各分科会を開催予定
 - 第 1 分科会 (登山文化部門)
 - 第 2 分科会 (遭難対策部門)
 - 第 3 分科会 (海外登山部門)
 - 第 4 分科会 (自然保護部門)

3. 実施体制

- (1) 登山研究集会実行委員会を構成し、連盟理事会のもとに開催の準備および運営を行う。

4. 実施に向けて

- (1) 講演会・・・・・・連盟理事会のもとに、講師候補者の選定をする。
- (2) 論文報告集・・・・各分科会のテーマ及び内容の検討を各分科会担当より段取りよく手筈し運営していくことが肝要です。
- (3) 懇親会・・・・・・記念講演会講師及び実行委員メンバーにて開催します。

第 54 回目として参画していく実行委員にて、段取りよく運営を心がけていきます。
宿泊条件などの利便を考慮するため、従前より開催日程を一週間ずらしています。

2025 年度自然保護委員会活動方針

本年度実施予定の行事です。皆様のご参加とご協力をお願い致します。

1. クリーンハイク（6月15日第3日曜日）

ポケットサイズのマナー袋 300 枚を作成し、クリーンハイクに参加した会員の皆さんから一般登山者に配布していただき、マナーの呼びかけをしていただきますので、ご協力をお願い致します（チャック式ポリ袋にはマナーカードとゴミ袋が入っています）。なお、山菜採りの入山者が多い山域にゴミが多いので対象山域として検討していただきたくよろしくお願い致します。

2. 自然学習交流会の企画

下記のイベントを計画します。

- (1) 大雪山登山道整備視察と高山植物観察山行を合同で大雪山旭岳周辺で実施予定。
- (2) 大雪山高原温泉沼めぐりコースの携帯トイレブース 2カ所の視察を予定。
- (3) 美瑛富士携帯トイレブースの清掃パトロール活動に参加予定。
第1案：8月30日（土）～ 31日（日）。
第2案：天候不良や日程の不都合が生じた場合は、別途日程を検討する。
- (4) 登山道整備 塩谷丸山～天狗山縦走路穴滝コースの笹刈を予定。
第1次笹刈 6月7日（土）穴滝コース。
第2次笹刈 10月4日（土）穴滝コース・自然の村登山口コース。

3. 登山研究集会自然保護分科会

11月16日（日）に「女性の視点から見た山のトイレ事情」の講演会を予定。

2025 年度海外委員会活動方針

1. 各会から海外委員を選出し、海外委員会を構成、運営します。

2. 海外登山に関する情報、資料の収集と管理

今後の各会、会員の海外登山活動が一層活発になるよう情報を提供します。そのためには、各会が海外登山、トレッキング、フリークライミングを含めて計画書を道央連盟海外委員会に提出することをお願いします。報告書は全国で統一化されたものを使用してください。

3. 2025 年度北海道登山研究集会

「第3分科会 海外登山部門」の内容を検討し、資料作成や運営を担当します。

4. 講演会等の企画

会員の海外登山への関心を高めるため、講演会等の企画に取り組みます。隔年ごとに開催していましたが、コロナ以降は検討中の形になっています。

5. 北海道海外登山研究会の支援

各山岳会の枠を超えて、道内で唯一海外登山を研究している任意団体である北海道海外登山研究会が主催する集会の開催を支援し促進します。

2025 年度救助隊活動方針

1. 日常活動

情報収集・体調体力管理・各自山行

2. 組織レスキュー・個人スキル向上の訓練

連盟救助隊訓練・各会訓練・個人訓練・外部期間での訓練

3. 幹事会の開催

年に数回 救助隊幹事・隊員が集まり協議する

4. 装備の充実と適切な管理・更新と購入の検討

適時に棚卸しを行い 装備の在庫状況・状態の確認・今後の必要装備の検討する
検討中装備例

ファーストエイドキット、アサップロック・アサップソーバーアクセス、他。

5. 定期訓練（日程・場所・内容は随時検討）

春季救助訓練 2025 年 6 月頃予定

秋季救助訓練 2025 年 10 月～11 月頃予定

冬季救助訓練 2026 年 1 月頃予定

6. 全国救助技術交流集会への参加

全国連盟主催の各救助技術の情報交換・更新の集会に参加する
日時・場所は未定

空沼岳万計山荘友の会の活動について

1995年に空沼岳万計山荘友の会が活動をはじめてから今年は31年目（30周年）になります。財政難から空沼岳万計山荘の維持が困難になる中で、山荘所有者の札幌営林署（当時）は札幌市や大学、社会人山岳団体等に委譲を働きかけました。しかし、いずれからもこの申し入れを断られ、空沼岳万計山荘は存亡の危機に立たされました。

このような状況の中で、道央地区勤労者山岳連盟加盟各会の会員から、登山愛好者や札幌市民に親しまれている万計山荘を守ろうとの声が広がり、1995年5月に連盟傘下各会の有志や市民登山愛好者により「空沼岳万計山荘友の会」が結成され、札幌営林署（当時）との間で管理委託の契約を結び、山荘の管理を開始しました。以来30年、友の会は、道央連盟の支援も受けながら、市民に愛される空沼岳万計山荘をめざして活動してきました。

2000年には、雪圧による倒壊の危機に立ち至っていた山荘の土台とトイレの改修、2006年には屋根の葺き替えをどちらも登山愛好者や市民から募った募金により実施しました。また、2003年には全道の山小屋管理に携わっている団体・個人が集っての「北海道山小屋フォーラム」の開催の中心となるなど幅広い活動を行ってきました。

毎年のように起こる大雨等々による山荘への連絡用林道の崩壊、あるいはまた、トイレのくみ取りバキューム車の廃止問題などの種々の頭の痛い事態も発生してきましたが、その都度、石狩森林管理署あるいは札幌市に相談・要請を行うなどし、何とか解決してきました。

山荘内のポンプの高性能化、山荘入り口の風除室・山荘前のテラスの設置など、登山者が使いやすい山荘をめざしての努力も続けてきました。

また、11年前には1年間の準備の末、万計山荘友の会の20周年記念誌「雲上の時をつなぐ」を発刊しました。

近年、若い登山者の増加が際だって目立ち、各種団体の利用も増えてきており、万計山荘の役割はよりいつそう高くなるものと思われます。道央連盟は、全国的にも珍しい管理形態をとって活動している「空沼岳万計山荘友の会」を支援してきました。これからも、連携を図りながら札幌市民や登山愛好者の登山要求に応えていきます。

2024年度の主な活動

6月1日～10月31日の期間の土・日の山荘管理

5月24日 第30回 万計山荘友の会総会

6月8日～9日 第30回 万計山荘開き（65人参加）

9月7日～8日 山荘一斉修繕（22人参加）

※札幌登山道整備連絡協議会による笹刈りで札幌岳～空沼岳縦走路の開通（10/5 打上げ）

10月19日～20日 山荘仕舞い（16人参加）

2月1日～2日 屋根の雪下ろし (38人参加)

2025年度の活動について

「空沼岳万計山荘友の会」と協力して今後も活動します。引き続き、空沼岳万計山荘を守るため、友の会の活動を積極的に支援していくとともに、第31回友の会総会、第31回山荘開き等に参加します。また、30周年記念誌「雲上の時をつなぐ」の発刊に協力します。

引き続き、森林管理署や道、札幌市に山荘存続のための環境整備を求めています。

2025年度の主な活動予定

6月～10月の期間の土・日の山荘管理

5月22日 第31回万計山荘友の会総会 (30周年記念祝賀会)

6月7日～8日 第31回万計山荘開き

9月6日～7日 一斉修繕日、薪運び上げ

10月18日～19日 山荘仕舞い

2月7日～8日 屋根の雪下ろし

■資料 1

北海道道央地区勤労者山岳連盟規約

第一章 総則

第一条 名称

当連盟は「北海道道央地区勤労者山岳連盟」と呼び事務所を札幌市東区北12条東1丁目3-12 ノースハウス12 103号に置く。

第二条 加盟

- (1) 当連盟は北海道道央地区の登山、ハイキング団体によって組織され日本勤労者山岳連盟に加盟する団体で組織する。
- (2) 当連盟は北海道内の「北海道道北地区勤労者山岳連盟」「北海道道東地区勤労者連盟」と共に『北海道勤労者山岳連盟』を組織する。
- (3) 日本勤労者山岳連盟の「趣意書」及び「規約」を承認して、当連盟の承認を受けた登山団体は加盟団体となる。
- (4) 当連盟は必要と認めるときは、個人加盟をすることができる。

第二章 目的と活動

第三条 目的

当連盟は登山、ハイキングを広く一般勤労者のものとし、勤労者の立場に立脚した正しい登山、ハイキング観、登山、ハイキング理論、及び登山、ハイキング技術の普及と向上をはかり登山、ハイキング文化を充実、発展させる事を目的とする。

第四条 連盟の活動

当連盟は前条の目的を遂行するため次の活動を行う。

- (1) 未組織の登山者、ハイカーを連盟に組織する活動及び未組織地域に連盟の組織を広げる活動。
- (2) 全国的・全道的な活動の内容を加盟団体に正しく伝え、加盟団体相互の活動交流を援助する。
- (3) 山岳遭難を防止する活動を行う。
- (4) 海外登山を普及する活動を行う。
- (5) 山岳の自然を保護する活動を行う。
- (6) その他、目的遂行に必要な活動を行う。

第三章 機構

第五条 機関

- (1) 当連盟は機関として「総会」「理事会」「役員会」「役員（理事長・副理事長）選考委員会」を置く。
「役員（理事長・副理事長）選考委員会」についての運営規定は別に定める。
- (2) 当連盟に専門部として「事務局」「組織部」「遭難対策部」を置くことができる。
- (3) 当連盟は委員会として「登山文化委員会」「自然保護委員会」「海外委員会」を置くことができる。
- (4) 当連盟は「救助隊」を組織する。運営規定は別に定めるものとする。

第六条 総会

- (1) 総会は毎年一回、会長が招集して開催する。
- (2) 総会は次の事項を審議し決議、承認を得なければならない。

1 活動報告 2 活動方針 3 予算、決算及び会計監査報告 4 役員の選出
5 規約の改定 6 その他、運営に必要な事項

- (3) 総会は代議員と役員で構成され、代議員は加盟団体より選出する。
- (4) 役員の任にある者は代議員に選出する事は出来ない。
- (5) 総会は委任状を含む代議員の三分の二以上の出席で成立する。
- (6) 選出された代議員が出席出来ない場合は委任状をもって出席とする。
- (7) 決議は委任状を含まない出席代議員の過半数の賛成を必要とする。
- (8) 規約の改廃は委任状を含まない出席代議員の三分の二以上の賛成を要する。
- (9) 会長は必要に応じて「臨時総会」を招集することが出来る。又、加盟団体の三分の一以上の団体から要請があった場合は、「臨時総会」を開催しなければならない。

第七条 代議員

代議員の選出は総会の前年の十一月末日をもって、会員数二十名までは二名、それ以上の会員数十名につき一名とする。

第八条 理事会

- (1) 理事会は総会に次ぐ決議機関であり、同時に連盟の執行機関である。
- (2) 理事会は総会の決議にもとづいて理事長、副理事長、理事で構成し、定期的に会議を開催する。

第九条 役員会

- (1) 「役員会」は連盟の活動上重要な問題について、総会や理事会が開催不可能な場合に開催する 決議機関である。
- (2) 「役員会」は会長、副会長、理事長、副理事長、事務局長で構成する。
- (3) 「役員会」は会長が招集する。

第四章 連盟の役員

第十条 役員の構成

- (1) 当連盟に役員として会長 1 名、副会長若干名、理事長 1 名、副理事長若干名、理事者若干名、会計監査二名を置く。
- (2) 当連盟は顧問を置くことが出来る。

第十一条 役員の役割

- (1) 会長は当連盟を代表し、その活動を総理する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある場合は代行する。
- (3) 理事長は理事会の招集を行い、日常活動を執行する。
- (4) 副理事長は理事長を補佐し、かつ理事長に事故ある場合は代行する。
- (5) 理事は総会の決定事項に従い、連盟業務の執行にあたる。
- (6) 会計監査は当連盟の会計を監査し、総会に報告する。

第十二条 役員の選出

- (1) 会長、副会長は総会で推挙し、他の役員は選出する。
- (2) 任期は次期定期総会までとし、再選は妨げない。
- (3) 役員に欠員が生じた場合は、理事会は補充を行うことが出来る。その任期は前者の残り期間とする。

第五章 財政及び会計

第十三条 会計

- (1) 当連盟は一般会計及び特別会計を設けることが出来る。
- (2) 当連盟の経費は、連盟費、事業活動、その他をもってあてる。
- (3) 連盟費は前年 11 月末日現在の構成員数に 1 ヶ月 340 円を乗じた額とする。
- (4) 連盟費は原則として 3 ヶ月ごとの前納とする。
- (5) 個人加盟者の連盟費は年払い 5,000 円とする。

第十四条 会計年度

当連盟の会計年度は 2 月 1 日に始まり、1 月末日に終わる。

第六章 その他

第十五条 その他

理事会はこの規約に定められていない問題について、規約と趣意書の精神にもとづき処理することが出来る。

付則

- (1) 当連盟の設置は 1978 年 3 月 26 日である。
- (2) 当連盟の地域は石狩、渡島、桧山、胆振、日高、空知の各（総合）振興局管内とする。
- (3) 理事会の承認のもとにつくられた準備会は、当連盟に仮加盟することができ、その連盟費は第 13 条 3 項にもとづく額とする。
- (4) 特殊な組織形態をもつ山岳団体の連盟費は、その実情を勘案して理事会で決定することが出来る。
- (5) 当規約は 1995 年 3 月 6 日より実施する。
- (6) 2005 年 3 月 6 日一部改定（第 5 条）
- (7) 2008 年 3 月 2 日一部改定（第 13 条）
- (8) 2009 年 3 月 8 日一部改定（第 5 条）
- (9) 2012 年 3 月 4 日一部改定（第 1 条）
- (10) 2015 年 3 月 15 日一部改定（第 1 条、付則）
- (11) 2017 年 3 月 5 日一部改定（第 5 条）
- (12) 2025 年 3 月 2 日一部改定予定（第 1 条） ← 連盟事務所移転による

役員選考委員会運営規定

- (1) 役員（理事長・副理事長）選考委員会は加盟山岳会・クラブの代表とする
- (2) 役員（理事長・副理事長）選考委員は連盟会長が委嘱する。任期は次期定期総会までとする。
- (3) 役員（理事長・副理事長）選考委員会は、理事長、副理事長を選考し、総会に報告する。 _

■資料 2

北海道道央地区勤労者山岳連盟 救助隊規定

第 1 章（名称および所在地）

第 1 条 この隊を道央地区勤労者山岳連盟救助隊（以下、救助隊）と呼ぶ。

第 2 条 救助隊の事務所を道央地区勤労者山岳連盟内に置く。

第 2 章（目的と活動）

第 3 条 救助隊は救助活動を目的とする。

第 4 条 救助隊は次の活動を行なう。

搜索、救助、搬出活動。

救助訓練及び救助技術の研究。

その他。

第 3 章（組織、機関及び役員）

第 5 条 救助隊は、道央地区勤労者山岳連盟（以下、地区連盟）に加盟する山岳会の会員をもって構成する。

第 6 条 救助隊に役員会を置き、次の役員をもって構成する。

隊長 1名

副隊長 若干名

幹事 若干名

第 7 条 隊長は地区連盟理事とし、役員会で決定、総会で確認する。

2. 幹事は隊員の互選による。

3. 副隊長は幹事の中から隊長が指名する。

第 8 条 救助隊の運営は役員会が行なう。

第 4 章（隊員の任命及び解任）

第 9 条 隊員は各会の推薦により隊長が任命する。

第 10 条 隊長は隊員がやむを得ない事情がある場合、又は隊員として適当でないと認めたときは解任することができる。

第 5 章（出動）

第 11 条 1.道央地区連盟理事長（以下、理事長）は、各加盟山岳会代表者の要請により、救助隊を

出動させる。

2. 加盟外の団体及び個人からの要請の場合は、理事長が出動の決定をする。

第 12 条 救助隊出動に際しての必要経費は、全て依頼者が支払うものとする。

第 6 章（財政）

第 13 条 救助隊の財政は地区連盟の特別会計とする。

1982 年 3 月 7 日 執行

2006 年 3 月 5 日 一部改正

2017 年 4 月 1 9 日 一部改正

2024 年 12 月 22 日 一部改正

■資料 3

救助隊内規

第 1 条 隊員は次のような権利と義務を有する。

救助隊の活動に積極的に参加する。

常に所在を明らかにしておく。

隊員は山岳保険に加入しなければならない。

第 2 条 規定第 5 章の隊員の任命・解任は、役員会の決定により隊長が行なう。

第 3 条 救助隊出動に際しての必要経費とは、概ね次のようなものである。

交通費、通信費、宿泊費、食費、機材費、日当など。

出動の際に加入する保険など。

日当は基本的に夏山一日 10,000 円、冬山一日 15,000 円とする。状況により、救助隊幹事会と理事会にて検討する。

第 4 条 救助活動のための出動は次により行なう。

各会の代表者から理事長への依頼（要請）による。

救助隊の出動範囲は道内に限る。

救助要請を受けた場合、理事長は隊長を通じ、隊員に対して待機命令を出すと共に出動命令を出す。

救助活動は、原則として医療機関などに引き渡すまで隊が責任を持って行なう。

理事長は必要と認めた場合、各会に救助活動要員の出動を指示することができる。

救助に必要な装備は、原則として救助隊で準備する。

—